

平成 29 年度事業報告書

事業所名：特別養護老人ホーム 彦岳の太陽

1. 平成 29 年度主な取組み

平成 29 年度は開設 10 周年を迎える節目の年となり、改めて施設の基本理念に立ち戻り質の高い介護サービスの提供を行うとともに、より一層の地域貢献を目指してきた。また、10 年という歳月は、医療ニーズの増大や重度化という利用者の状態の変化をもたらした。こうした流れは、今後もますます顕著になってくると思われる。

2. 実施目標

- ① 施設サービス計画により、利用者のご家族の意向を尊重し、その人らしい生活を送れるような計画を作成する。また、業務本位ではなく、利用者本位の視点で計画を作成していく。
- ② 職員教育のため、介護技術の向上、重度化への対応、認知症への対応等について積極的に取り組み介護人材の育成を図っていく。
- ③ 地域との繋がりを大事にし、地域との交流を深め、地域に信頼される施設を目指す。
- ④ 業務改善を行い、効率化を図ることで、健全な運営を行う。
- ⑤ 他事業所との連携により支援体制の強化、利用率の向上を図る。

3. 目標に対する実施状況

- ① 施設サービス計画は、利用者と家族の意向を尊重したプラン作成を行ってきた。一人ひとりが安心して施設生活を送れるような計画作成を目指してきた。
- ② 職員教育については、毎月の全体会議後にテーマを決め、研修を行ってきた。また、医療ニーズの増大への対応のため、胃ろう吸引の資格取得にも取り組んできた。
- ③ 平成 29 年度については、毎年お盆に開催する、地域と合同の盆踊り、年末のもちつき、チャリティーショーや狩生演芸会への参加などの毎年恒例の取組を継続してきた。12 月には、認知症の行方不明者捜索の模擬訓練にも参加し、地域で認知症の方を支える活動にも取り組んできた。また、地域の方を対象にした講演会を企画し、多くの地域住民に参加して頂いた。
- ④ 業務改善については、ケアプランに沿った統一ケアを目指す取組を行った。利用者各個人に最も優先して実施する目標を決め、実施していく。そうすることで、各利用者に応じたサービスを提供することが出来た。また、ここ数年の利用者の重度化の傾向に合わせて、夕食の時間を 18 時から 17 時へと変更した。変更後は、夕食後から就寝までの排泄や更衣等のケアをゆとりを持って行うことができるようになった。
- ⑤ 他事業所との連携では、佐伯中央病院については、退院後福祉サービスを必要とされる患者を医療連携室と情報交換を行いながら、スムーズに彦岳の太陽の入所やシャートステイ、デイサービスに繋げていけるようになってきた。鶴見の太陽についても、退所後の受入れを行うなど連携してきた。また、佐伯の太陽については、居宅介護支援

事業所をはじめとした各事業所と連携を図ってきた。新規利用者の受入れはもちろん、介護・医療ニーズの増大によりグループホームから特養への入所など、その方に合った福祉サービスの提供を行ってきた。また、医療の必要な方へは佐伯中央病院や彦陽クリニックと連携を図り、早期に対応することで疾病の悪化を防止することができた。

3. 今後の課題

施設サービス計画書の作成についておよび地域とのつながりについては、これまで通り取り組んでいきたいとかがえているが、今後の課題としては、人材確保と職員教育の二つが特に重要だと考えている。小寺会・百徳会が協力して人材確保に取り組むとともに、そうした人材を育てていく教育やマニュアル作成にも取り組んでいきたいと考えている。